

令和4年度第1回下田市総合教育会議 会議録

開催日時： 令和4年8月25日（木）15時58分～17時15分

場 所： 下田市立中央公民館 大会議室

出席者：

【委員】

市長	松木 正一郎	教育長	山田 貞己
教育委員	田中 とし子	教育委員	西堀 政幸
教育委員	天野 美香	教育委員	渡邊 亮治

【事務局】

学校教育課			
課長	糸賀 浩	参事	土屋 大祐
課長補佐	土屋 仁	こども育成係長	増田 義和
学校教育係長	原 隆史		
生涯学習課			
図書係長	朝比奈 誠	社会教育係長	中堀 啓司
企画課			
課長	鈴木 浩之	企画調整係長	藤井 数仁
主事	竹見 裕野		

傍聴者： 報道関係3名

1 開会 15:58

2 あいさつ

・市長

夏休みが明け、小中学校は今日から2学期が始まった。本日は、1学期を終え、さまざまな報告をするとともに、近年言われている教育の魅力化について、グローバル CITY プロジェクトの進捗状況及び課題と併せて説明がある。皆様の的確なご意見をいただきたい。

・教育長

7月21日付で教育長に就任し、初めての総合教育会議となる。子どもたちの課題、学校での問題は山積しているが、子どもたちの明るい未来に向け、皆様と協議していきたい。

3 報告事項

(1)市内小中学校の状況について（1学期の振り返り）

・事務局（学校教育課参事）より資料1に基づき説明。

【質疑、意見等】

質疑や意見はない。

(2)市内小中学校のいじめ等の状況について

・事務局（学校教育課参事）より資料2に基づき説明。

【質疑、意見等】

・田中委員

いじめは学校だけの問題ではない。大人がパワハラを受け自殺してしまうケースもある。子どもたちが将来そのような場合の対応方法、また、どのような考え方を身に付けておかなければならないのか、その方法やシステムを教えていく必要がある。いじめにあったら、子どもにメモを残しておくよう伝える。システムについては、教育委員会や市役所において話し合う場があるということを教えていく必要があると思う。

・学校教育課参事

選択肢があることや、お互いにお互いのことが言い合えるような授業を学校でも目指しているため、今後参考にしていく。システムについては検討していきたい。

・教育長

情操教育や心の教育をする必要があるので、幼小中の連携が重視されている。幼児教育も注目されている。SNS 関係でのいじめが多くあり、SC、SSW 等の相談体制はできているが、心の教育について地域を含めて対応しなければならない。大人の背中を見て子どもは育つ。

・天野委員

不登校にはさまざまな理由があるが、自分の居場所はあるのだと伝えていくことが大切だと思う。

・西堀委員

集団生活を営む上でいじめは起こりうるものだが、強者が弱者をいじめるということは卑怯な行為である。いじめる側は罰を与えられるということをきちんと知ってほしい。いじめられた子は、親、先生には言えなくとも、親友には言えるようになってほしい。相談できる親友を作ること、子ども同士の絆が一番大事だと思う。そして、いじめられた子は、喧嘩をするというのではなく逃げずに立ち向かってほしい。毅然と対応すべきだと教えてあげる必要があるのではないかな。

・教育長

子どもたちの相談手段が SNS になっており、そのことが更に問題になっている。家庭と学校との連携、子どもと学校とのコミュニケーション、そして家庭内でのコミュニケーションをしっかりとることが大切である。SNS に関するいじめ問題は実際にどのようにしたら良いのか、なかなか解決策が見つからないのが実情だが、今後、上手に SNS を活用できるようにしていきたい。

・市長

本で、動物の本能として集団の中で異質な者を排除するのは人間にも共通するものだという話を読んだことがある。無意識に取っている行動で相手を傷つけてしまうことがあるため、コミュニケーションを取ることは大切だと思う。

子どもたちの中で、大人が気付かないネットワークができあがっている。SNS により、子どもたちの会話が聞こえず姿が見えないサイバー空間の中でやり取りが行われており、大人がうまく関与できない世の中になっている。SNS を使うなというのではなく、スマホは1つのインフラとなっているため、このような社会であるということを前提した対応が必要ではないか。

経験を積んだ世代と、生まれた時からインターネット環境が当たり前のZ世代や、ITが染みついた世代の先生方の意見を取り入れることで、何らかのアクションを起こせる可能性があると思う。

・教育長

今の生徒指導はSNSが発端となっているものが多い。SNSの活用が大きな課題だと思う。

・企画課長

下田中学校で統合したことにより不登校が改善した例があるとの話があったが、小規模の固定化された人間関係が、大規模になったことによって解消されたと考えているか。

・学校教育課参事

3～4名程度の子どもが長期不登校から復帰した例がある。中学校で新しい部活動で活躍したことがきっかけとなった。新しい環境で自分を出せるようになったようだ。

・教育長

統合により大規模になったことで不登校の子どもが増えるではとの懸念もあったが、予想以上になかったので良かった。

(3) まちじゅう図書館事業の現状報告及び今後の方針について

・事務局（図書係長）より資料3、資料4に基づき説明。

・田中委員

まちじゅう図書館の実現はいつか。

・図書係長

今年度中を考えている。

・田中委員

利用できる人は旧町内に住んでいる人か。

・図書係長

店舗に来る人は誰でも利用できる。店に本が置いてあり自由に読むことができる。今後可能であれば、市内各所、須崎、稲梓等にも拡大していければと考えている。

・田中委員

今の図書館について、今後どのような利用をしていくのか。

・図書係長

現在、日本大学に調査業務を委託しており、先日ワークショップを実施した。今年度、あと2回実施する予定。今後の図書館の方向性についてもまとめていきたい。

・田中委員

今の図書館は改築するのか。

・ 図書係長

そこも含め、今後検討していくことになる。

・ 教育長

今後の図書館のあり方を考える第一歩として先日、ワークショップを行った。

・ 市長

一昨年、文化のまちづくりを考える集会において、文化の香りがするまちにしたい、まちおこしにつなげたいという考えから、まちじゅう図書館の発想が出た。「まち」とは旧町内に限らず、市内幅広く文化的な空間があると良いという意見があった。これからの図書館のあるべき姿はどのようなものかということでワークショップを開催しているが、当面は紙の本が主体となる一方で、若者の中ではタブレットで電子書籍を読む人が増えてくるかもしれない。家から出ずに、ということではなく、例えば喫茶店に行って本を手にすることで、見知らぬ人とつながりができれば良い。文化の香りの高いまちを目指す政策の一つがまちじゅう図書館であり、本を読む物理的空間としてまちの飲食店等が活用されれば良いと考えている。

・ 天野委員

そのような空間があって本を読めることは素晴らしいこと。この事業の実施についての市民への周知方法はどうか。

・ 図書係長

広報やホームページになる。決まり次第お知らせする。

・ 渡辺委員

旧町内から例えば須崎とか稲梓など他地域にも広げていくと思うが、店舗に行ってから貸し出しはどう考えているか。

・ 図書係長

他市町の事例では、図書館から店舗に貸し出している本以外は店の判断になる。市においても蔵書の貸し出しについては検討が必要だと考えている。

4 意見交換

教育の魅力化について（高校・大学との連携）

・ 事務局（企画課長）より資料5、資料6、資料7に基づき説明。

【質疑、意見等】

・ 教育長

グローバルCITYプロジェクト取組概要について、中高連携事業とあるが、内容としては市が中学、高校と連携しているということか。

・ 企画課長

未来の下田総合プロジェクト会議において、昨年から下田高校の先生にも参加していただいており、今後、部活や教育面において中学、高校との連携について検討し進めていきたいとしている。

・市長

本来、下田市総合教育会議という場合は、下田市が管轄している中学校までを範疇としているが、教育の魅力化や高校の統廃合等、激動の少子化が露呈してきている結果、このような事象に直面している。このような中、私たちは中学校までのことを議論すれば良いというのではなく、その先についても考えるべきだということで、高校の魅力化や大学との連携により、総合計画に掲げた「つながる下田」に沿う形で、このまちの教育を魅力的なものに変え、これにより関係人口、定住人口を増やしたいと考えている。ぜひ皆様の知恵をいただきたい。これから、高校の統廃合、部活動の地域移行等、県と議論する場が出てくるが、下田市としての意見をしっかりと持ち対応できるようにしていきたいと考えている。

・田中委員

子どもにとっての魅力化とは、自分の夢、将来を実現できるかということだと思う。なりたい夢があり、なりたいことができるになれば、子どもたちは夢中になってやると思う。1つの学校の中に、色々な子どもたちを受け入れてくれる体制があれば魅力的な学校だと思う。

・企画課長

高校では1年生から総合探究の時間で、地域と関わり色々な職業を見ることで、将来なりたいもののイメージ作りをしているという。地域を知らないまま卒業するのではなく、地域を見せてあげることが地域としての責任だと感じる。地域の人や場面に触れ合う機会としてグローバル CITY プロジェクトがチャンスになると考えており、市としてもチャレンジしていきたい。

・天野委員

子どもたちにイメージを持たせるために目で見ると、耳で聞く色々な経験をさせることをもう少し増やすことが教育の魅力に繋がると思う。なりたい自分をイメージトレーニングすることから教育が始まるのではないかと感じた。

・教育長

高校は学力で選ぶだけではなく、勉強したい学科を選択できると良いかもしれない。魅力的な高校とは、やりたいことをコース選択できる学校であれば子どもにとってもインパクトがある。魅力的な高校とはどのようなものか、今後も考えていく必要がある。

・天野委員

やりたいことはあるが、下田では学べないとあきらめるのではなく、選択肢のある学校で選択肢を広げてあげることが魅力化につながるのでは。

・教育長

黒船祭がグローバルの柱だと感じる。

・市長

骨太の教育方針を持って今後も議論していきたい。

・企画課長

引き続き、高校の統廃合及び高校の在り方の動きについて注視していく。またグローカ

ルCITYプロジェクトについても定期的に報告しながら進めていく。

5 その他

6 閉会 17:15